

# 論文・レポートについて



# 論文とはどのようなものか？

- ▶ 論文(レポート・エッセイ含む)とは、「命題を持った文章」でなければならない。
- ▶ 命題とは？
  - 結論を持った文章
  - 何らかの方法(科学的・客観的・或いはその他の方法)で、その結論の真偽を判定できる
  - 反証可能性のある文章

# 命題を持たない文章の例

- ▶ 日本の人口は増えているのか？減っているのか？（結論のない文章）
- ▶ 神は死んだ（真偽の判定ができない文章）

⇒ 命題を持たない文章

- その文意の是非を検証できない文章
- 反証可能性のない文章
- 証明されていないものは反証もできない

# 定義：命題を持たない可能のある文章

- ▶ 人類史は階級闘争の歴史である

「階級闘争」の定義なくしては検証不可能

- ▶ 国際法は法に非ず

「法」の定義なくしては検証不可能

# 定義

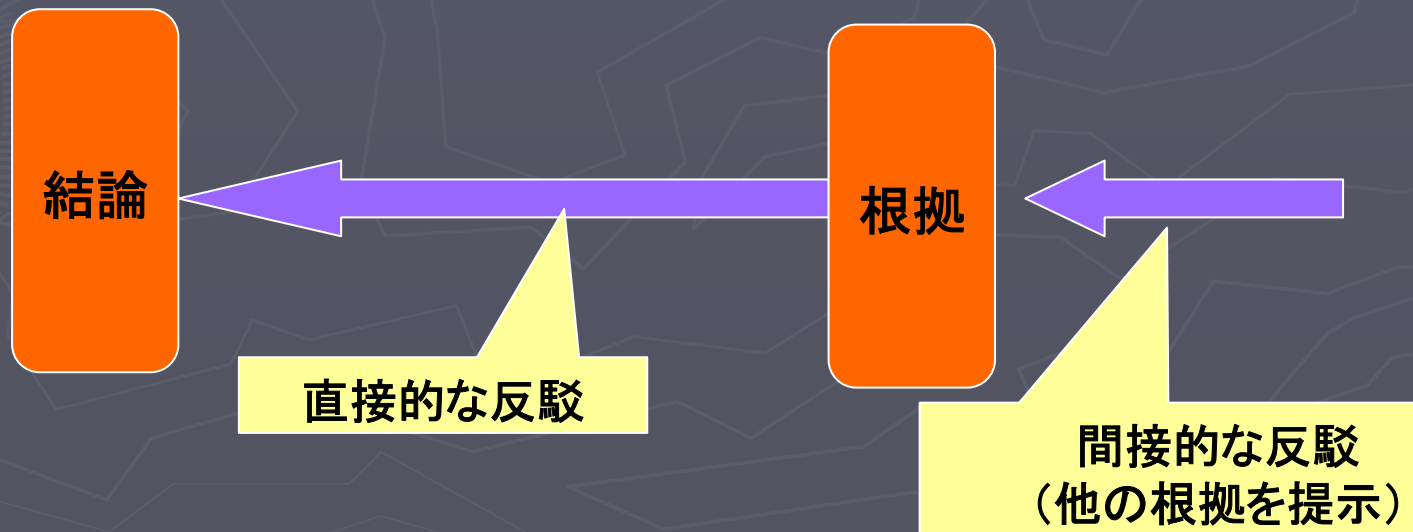
- ▶ 一般的な定義・・・辞書的な定義
- ▶ 当該文献における定義
- ▶ その事例(文脈)における定義
  - その定義の意味
  - その定義が成り立つ条件

# 定義の検証

- ▶ Purpose(目的)なんのために
- ▶ Position(立場)誰にとっての
- ▶ Perspective(構え)どの視点で
- ▶ Period(時間)どの時点で

# 直接的な反駁と間接的な反駁

- ▶ 直接的な反駁によって、その命題の真偽を検証
- ▶ 間接的な反駁によって、他の命題を提示



- ▶ 反証可能性
- ▶ 同語反復
- ▶ 語句の置換
- ▶ カテゴリーミステイク
- ▶ 循環論法



# 反証可能性

- ▶ ある仮説が特定の手段(実験・観察・検証)によって反証される可能性があること
- ▶ 少なくとも反証をなし得る論理的可能性が存在すること

例) ○地球は丸い(観察によって検証可能)

○りんごは木から落ちる(実験によって検証可能)

○彼はうそつきである(彼の発言内容を調べることで検証可能)

○神の国は私たちの間に存在する(反証不可能)

# 同語反復

- ▶ ある用語を説明する際に、同一の用語を反復して用いること

例)① 国際社会とは、国際的に構成される社会である。

②政治学とは、国内や国際社会についての政治を研究するものである

# 語句の置換

ナショナリズム

= ナショナル・アイデンティティが共有されている  
という思想の傾向である

- ▶ 「ナショナリズム」という語を「ナショナル・アイデンティティ」に置き換えただけ

# カテゴリー・ミステイク

- ▶ ある対象についての属性を他のものに帰す
- ▶ 異なった対象を同一の対象として扱う

例) ○日本は島国であるので、日本人は語学が苦手である

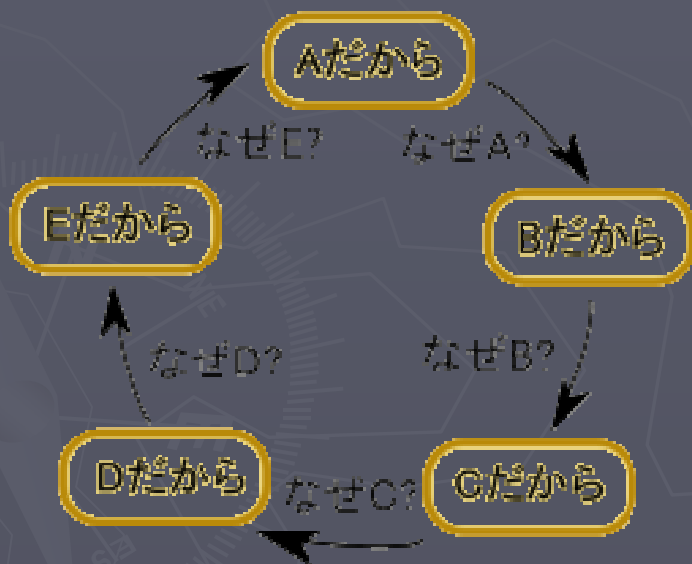
○アメリカは歴史が浅いので、プロテスタントが多い

○A: 冷戦後、国家間の戦争はなくなった。

B: アフリカや中東では民族紛争など戦争が続いている

# 循環論法

- ▶ 主張Aの根拠を他の要因Bに帰するが、他方でAが要因Bの前提となっている関係



- 法は政治に由来している
- 政治は法によって規定されている

# 学術論文の特徴

- ▶ 学術論文は、(余程水準が低いものを除いて)以下の三点が必ず含まれています。
- ▶ ①問い: どういった問題設定を行ない、何をどこまで明らかにするのか。
- ▶ ②問いに対する主要な結論
- ▶ ③その結論の重要性・貢献度
- ▶ ④その結論の唯一性

# 問題解決

- ▶ ハーバート・サイモン『意志決定の科学』(1979年):  
ノーベル経済学賞受賞者

「問題解決は目標の設定、現状と目標(あるべき姿)との間の差異(ギャップ)の発見、それら特定の差異を減少させるのに適当な、記憶の中にある、もしくは探索による、ある道具または過程の適用というかたちで進行する」

⇒ 検証のポイント

当該論文によってどのような問題がどの程度解決されているのか？

# 必要十分性

問題Aに対する解決策Bは、  
必要なものか？またそれで十分なものか？

- ▶ 必要でもなく十分でもない
- ▶ 必要だが十分でない
- ▶ 必要ではなく十分
- ▶ 必要かつ十分

⇒ 検証のポイント

当該論文による解決策は必要かつ十分なものであるか？



# 【補足】必要条件・十分条件

- ▶ 戦争が起きる原因は何か？

【必要条件】世界政府の不在

【十分条件】貧困・経済格差・資源の配置etc

- ▶ 「世界政府の不在」は戦争が起きることへの必要条件ではあるが、十分条件ではない
- ▶ 「世界政府の不在」という条件下でも戦争の起きない場合がある

# 本日(10月6日の)課題

▶ 【Ⅰ】【Ⅱ】のうち、ひとつを選び1000字程度で論じてください

【Ⅰ】①無知の知(19頁)②死を恐れる(43頁)のそれぞれについて、ソクラテスの主張を要約し、その上でその論理的な意義と限界について述べてください。

【Ⅱ】ソクラテス裁判を法学的・政治学的に捉えた場合にどのようなことが言い得るか、自由に論じてください

▶ 締め切り:10月20日(火)正午まで